



Microsoft Excel のキホンとは？

私が初めてエクセルというソフトに出会ったのは、1989 年の頃だったと思います。その頃初めて日本にもアップルのマッキントッシュのパソコンが入ってきました。その頃の画面は 9 インチほどの白黒のディスプレイでしたが、その上で英語版のエクセルを使ったのを覚えています。Excel は、Windows ではなく Macintosh で最初に使われたソフトなんです。

Excel の基本機能とは？

エクセルの特徴は、広大な集計シートを持っており、何枚かの集計シートをまとめて保存することができるということです。その集計シートは、行と列で構成されており、行番号と列番号で指定されるセルの集合体です。この 1 つ 1 つのセルの中には、通常の文字も入力できますが、何といてもエクセルの特徴である「様々な形式の数字」や、「四則演算の式」、さらに「関数といわれるエクセルに組み込まれた計算式」を入れ込むことができます。さらに、行と列で構成されるデータから、様々なグラフを作成することもできます。

Excel では、印刷が難しい。

エクセルのシートは広大であり、シート全体を印刷すると大変なことになってしまいます。そこで、エクセルでは文字や数字が入力されているセルの範囲を認識して、その範囲だけを印刷するようにしています。しかし、広大なデータが書かれているシートを印刷することは、単純ではありません。このため、エクセルの印刷は、拡大縮小印刷などの機能や、行や列の見出しを全ページに印刷するしくみなどが備わっています。ワードは、単純に画面に見えているままが 1 ページとして印刷できるソフトですが、エクセルの場合は、内容によって印刷の仕方を変える必要があり、その点で印刷にもスキルが必要なソフトです。

オートフィルこそが、エクセルの革命的な発明です。

今では誰でも知っている「オートフィル」ですが、これほど革命的な機能はありません。これは、1 つのセルを行方向や列方向に簡単にコピーしていく機能です。単なるコピーではなくて、曜日であれば自動的に月火水木土日と繰り返しますし、数字であれば連番になりますし、式であれば、式が参照している範囲を自動で変化してくれるという優れたものの機能です。この機能のおかげでエクセルは全世界に広まっていったといっても過言ではありません。

今でもエクセルの関数は増え続けている。

エクセルといえば、関数を理解することが勉強の一つです。関数といっても中学校や高校で習うような 1 次関数とか 2 次関数というものとは全く違う関数です。エクセルの関数は英語圏では Function と呼ばれていて、便利で簡単な計算の機能と考えるだけでいいものです。この関数は基本的なものから、複雑なものまで多数ありますが、エクセルのバージョンが上がるたびに新しい関数が追加されており、より機能的な計算ができるようになってきています。エクセルの関数のすばらしい点は、関数の中に多段階に関数を入れ込むことができる「入れ子」機能を持っていることです。

より多くの人々がエクセルを理解して、お仕事に活用していただきたいと思っています。

ノコテック・ラボ 代表 河野敏明